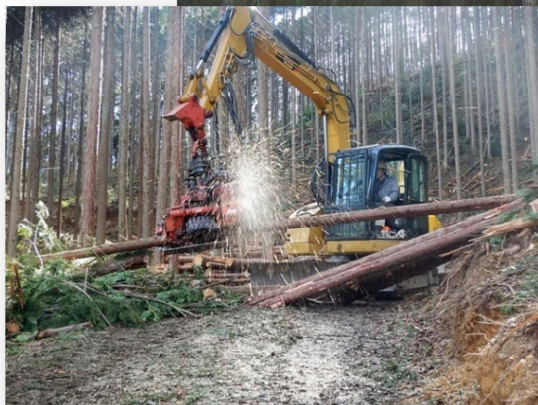
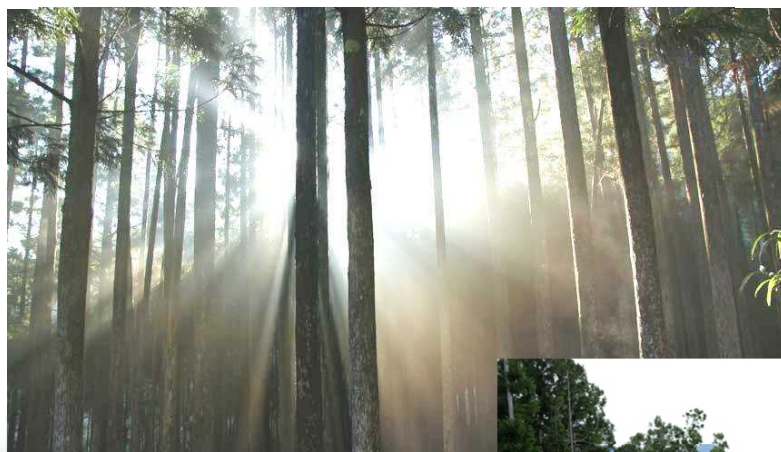


和歌山県森林・林業総合戦略

～新・紀州林業への挑戦～



2017（平成29）年7月

和歌山県 農林水産部 森林・林業局

目次

第1章 総合戦略の基本事項	1
1. 策定の趣旨	1
2. 対象期間	1
3. 素材生産量	1
4. 進捗管理	1
5. 森林ゾーニング	2
第2章 具体的な取組	3
1. 適正な森林管理	3
①循環型林業の促進(経済林)	3
②森林所有者による手入れが困難な森林の保全(環境林)	4
③貴重な森林の継承(環境林)	5
2. 素材生産体制の強化	6
①素材生産業者の販売力強化	6
②基盤整備の推進	7
③素材生産業者への森林情報の提供	8
④優秀な人材の育成・確保	9
3. 素材流通体制の強化	10
①木材市場の機能強化	10
②選別技術者の育成	11
4. 紀州材加工販売体制の強化	12
①加工事業者の生産・販売力強化	12
②公共建築物等への紀州材利用拡大	14

第 1 章 総合戦略の基本事項

1. 策定の趣旨

和歌山県は 2016(平成 28)年度に新しい長期総合計画を策定しました。この計画のうち「林業の振興」の項目では、森林ゾーニングによる施策の選択と集中を行い、産業政策として「林業・木材産業の成長産業化」を、また環境政策として「多様で健全な森林づくり」を、それぞれ進めることとしています。あわせて、年間の素材生産量や木質バイオマスエネルギーへの木材利用量、林業就業者数などの重要な指標については、数値目標を掲げて計画の進捗状況を管理していくこととしました。

このたび、こうした数値目標のうち、特に生産活動の基本的な指標である素材生産量の増大に主眼を置き、2021(平成 33)年を目標年度として、森林管理と木材の生産・流通・加工販売の各分野において重点的に取り組むべき内容を明らかにするため、「和歌山県森林・林業総合戦略(以下、「総合戦略」という。)」を策定しました。

今後は、この総合戦略に基づいて、「新・紀州林業への挑戦」を進めていきます。

2. 対象期間

2017(平成 29)年度～2021(平成 33)年度の 5 年間

3. 素材生産量

26 万 m³/年 (2021(平成 33)年)

注)素材とは、森林からスギやヒノキなどを伐採して、運びやすいよう造材したもので、この総合戦略では加工業者に渡るまでの丸太を指す。原木ともいう。

4. 進捗管理

総合戦略の推進に向けて、第2章に掲げる項目ごとに進捗管理目標を定め、これに関連する数値を随時収集し、その結果を施策や事業に適切に反映していくことにより、目標の着実な実現につなげていきます。

5. 森林ゾーニング

県では 2016(平成 28)年度に、表1に掲げる選考因子に基づいて森林ゾーニングを行いました(図 1 及び図 2)。森林ゾーニングは、県内の森林を「経済林」と「環境林」に区分し、「経済林」の中でも特に素材生産に有利な条件の場所を「重点エリア」として位置づけたものです。

総合戦略では、このゾーニングに基づき、素材生産のための支援策を重点エリアに集中して林業の競争力強化に努めます。また、環境林においては森林の公益的機能が十分に発揮できるような取組を進めます。

図 1 和歌山県森林ゾーニング配置図

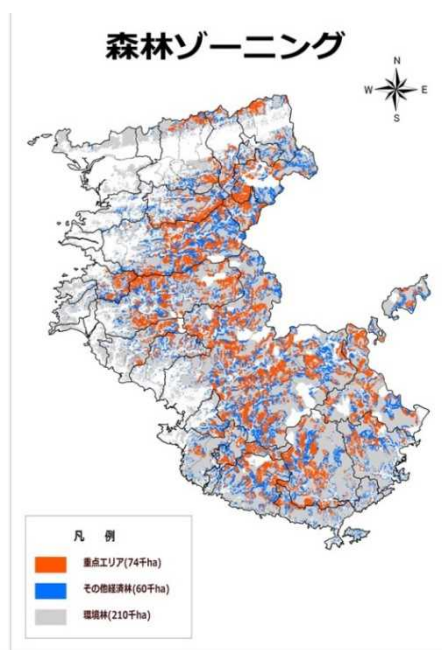


図 2 森林ゾーニングの一例(田辺市龍神村)

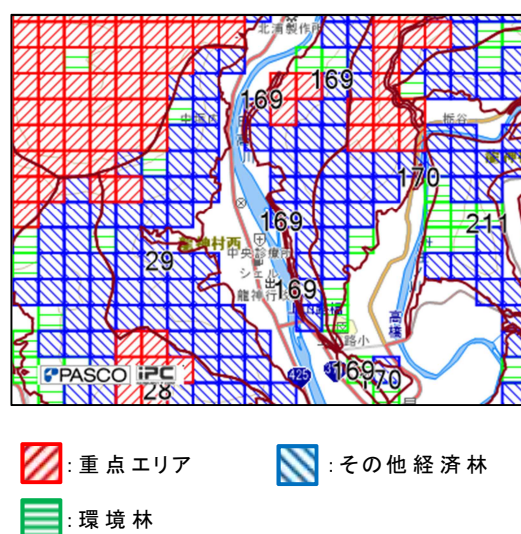


表 1 森林ゾーニングにより区分された森林面積及び選考因子

区分	面積	選考因子
経済林	134 千 ha	4tトラックが走行可能な道路から 500m 以内 山腹の傾斜角が 40 度未満
重点エリア 	74 千 ha	上記に加え、次のいずれかの条件を満たすところ ・路網密度(林道+作業道)が 5m/ha 以上 ・間伐などの施業履歴
その他経済林 	60 千 ha	重点エリア以外の経済林
環境林 	210 千 ha	経済林以外の森林(人工林を含む)
合計	344 千 ha	

注)面積は上記の選考因子により区分されたメッシュ(100m×100m)を数えたものであり、2016(平成 28)年4月1日時点の地域森林計画対象森林の合計面積とは合わない。